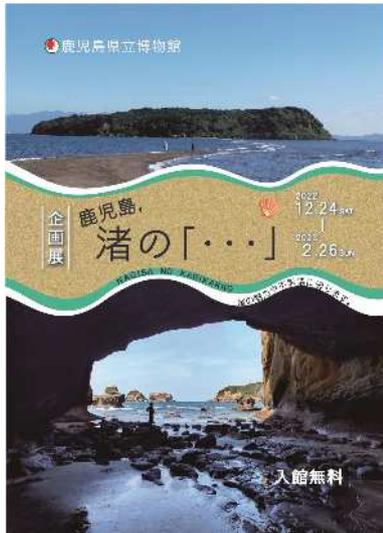


企画展「鹿児島、渚の『・・・』」

県立博物館

鹿児島にはどんな「渚」があるの？

令和4年12月24日（土）から令和5年2月26日（日）まで、博物館本館1階企画展示室で「鹿児島、渚の『・・・』」を開催しています。（『・・・』の読み方は、「カギカッコ」）



【企画展ポスター（表）】

鹿児島県は、都道府県別の海岸線の長さでは、北海道（4,461km）、長崎県（4,183km）に次ぐ第3位（2,666km）の長さを誇ります。また、亜熱帯から温帯にかけて南北600kmに及ぶ県土には、砂浜海岸やリアス海岸、干潟などに加えて、隆起サンゴ礁海岸やマングローブといった、多様な海岸に囲まれています。今回の企画展では、鹿児島県の多様な海岸の特徴と、そこに暮らす生物たち、そして私たち人間との関わりについて知ることができます。

展示では、それぞれの海岸のでき方に加えて、海岸付近に生息する植物や昆虫、動物たちの営みについて写真や動



【養殖が盛んなリアス海岸】

画、標本で紹介し、その独特の生存戦略を解説します。また、鹿児島には内之浦と種子島に二つのロケット発射場がありますが、ロケット発射場が鹿児島の渚にできた理由も解説します。企画展開催期間中には、植物・昆虫・動物・地質・天文の各分野の学芸主事による20分間程度のミュージアムトーク（展示解説）を4回行います。

どんな展示が見られるの？

それでは、展示の一部を紹介しましょう。

薩摩半島の西海岸には、いちき串木野市から南さつま市まで約47kmの砂浜が続く吹上浜があり、



【吹上浜の砂浜】

鳥取砂丘（鳥取）、南遠大砂丘（静岡）と並んで、日本三大砂丘と称されます。ここに長大な砂浜ができたの

は、鹿児島県本土に厚く分布するシラスと深い関係があり、吹上浜という名前にもそのでき方の秘密が隠されているようです。この企画展では砂浜のはじめ、リアス海岸や干潟、隆起サンゴ礁海岸のでき方や特徴について解説しています。

渚は、潮の満ち引きによって陸になったり海になったりを繰り返すため、多くの生物にとっては生活しにくい環境となっています。一方で、この環境を巧みに利用した植物や昆虫、鳥なども多く生息し、渚に独特の生態系を作り出しています。普段はあまり目にするものないちょっと変わった生物たちも見るすることができます。

さらに、県内各所の砂浜には多くのウミガメが産卵のために上陸します。鹿児島県は全国に先駆けて、昭和63年にウミガメ保護条例を制定し、その保護に



【上陸したアオウミガメ】

力を入れています。今回の企画展では、県内に上陸する3種類のウミガメの見分け方や、砂浜に深い穴を掘って産卵する理由などを、実物の標本を展示して解説しています。

最後に、博物館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、入館時の検温、手指の消毒をお願いしています。皆様の御理解、御協力をお願いします。